会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により，次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成２７年度第１回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	平成２７年５月２２日(木)15時00分～
開催場所	高松市役所７階７２会議室
議　　題	(1)平成２７年度高松市伝統的ものづくり振興事業について (2)今後の事業展開に関わるその他の事項について (3)その他
公開の区分	☑　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	５　人 池田委員、香川委員、泉川委員、谷委員、本多委員
傍聴者	０人　　（定員　５　人）
担当課および連絡先	産業振興課創造産業係 839－2411

審議経過および審議結果
（事務局） 開会のことば ～事務局より議題説明～ (1) 平成２７年度高松市伝統的ものづくり振興事業について (2) 今後の事業展開に関わるその他の事項について (3)　その他 ～事務局より議題（１）について資料をもとに報告～ （委員） 新年度、新たに取り組む事業と廃止する事業があるが、１階市民ホールの展示は中止する予定なのか。 （事務局） 前年度、市民ホールの展示は、今まで伝統的ものづくり産業に関心を持っていなかった人を対象として実施した。今後も市民ホールのみならず、様々な方法を検討しつつ、そのような人達への働きかけをしていきたい。 （委員） 開催する時期を住民の出入りが多い年度末から年度初めにしてみるとＰＲにもなりよいのではないか。 （委員） 県外への派遣事業についてだが、選出方法はどのようにするのか。 （事務局） 組合等からの推薦を考えているが、作り手、販売手等幅広い分野から選出したいと思っている。

審議経過および審議結果
（委員） 各業界の繁忙期なども考慮し、派遣事業実施の日程調整を早いうちにすべきである。 （委員） 前回の派遣事業についてだが、例えば漆器の職人は金沢に行って何を見学したのか。 （事務局） 工房や販売の現場はもちろん、高松と金沢の職人同志が話せる場を作り、交流を深めることができたと感じている。 （委員） 作り手も、商品を作るだけでなく販売の現場も見て「売る」ということに対する意識を高めていくべきである。販売の手法にも様々な考え方があるので、その部分もぜひ見てきてほしい。 （委員） 金沢には海外からの訪客も多く、伝統工芸品の製作体験の非常に人気がある。 （委員） 先日ヨーロッパからの来客があったが、我々が当たり前に感じていることも興味をもって見ており、インターネット等を通じての個々の情報発信力も高い。今後の観光事業を考えるうえでも、東京や京都、大阪だけでなく、いわゆるローカル地域への集客を図る取り組みも必要なのではないか。 （委員） 実際にものづくりを体験することで、後に多くの商品を発注してくれる場合もあるので、チャンスにつながると思う。 （委員） 安い海外製品があふれている中、どうやって買ってもらうかを考えると、展示の仕方等の差別化が効果的であると思う。 （委員） 今年度の新規事業である、企画展示セミナー事業だが、海外への販路開拓についてはどのように考えているのか。 （事務局） 海外からバイヤーを招聘するためには予算との兼ね合いもあるため、今後検討していきたい。 ～事務局より議題（２）について説明～ （委員） 伝統的ものづくり振興条例の６つの基本的施策のひとつである、事業環境の整備等というのは具体的に何を指しているのか。 （事務局） 当初の例示として挙がっていたのは経営講習会等の販売促進に対する支援を指していたが、環境整備というハード面の具体的な支援策に関しては検討中である。 （委員） 伝統的ものづくり産業のネットワークの構築に関しての進捗状況はどうなっているか。 （事務局） 現在準備中であり、効果的な方法を検討している。

（委員）
技術が伝承されて残るためには、いままでにない種類の製品への応用も必要なのではないか。
（委員）
ふるさと納税で伝統工芸品を扱ってはどうか。
（事務局）
高松市では伝統工芸品も扱っているが、やはり讃岐うどんなどの食品に人気が集まっているのは事実である。しかしＰＲも兼ねて今後伝統工芸品も取り扱いたいと考えている。
（委員）
売れるものを作れば携わろうとする若い人達も増えてくると思うので、後継者の育成にも自然につながると思う。
（委員）
創造都市推進懇談会（Ｕ４０）において、県外の人を呼ぶための施策について議論しているが、県内の人だけで伝統的ものづくりの販売者や生産のすべてを担うというのは難しいのではないかと思う。
現在は食を中心とした移住施策等はあるので、ものづくりの現場においても同様の視点を持ち、取組むとよいのではないか。
（事務局）
現在本市では、文化芸術振興計画のもとに、学校給食で漆器を使うことを検討中である。他市での取り組みを見ると種類も様々であるため、最良の方法を取り入れたい。
（委員）
市内のどこかの１校を実際にモデル校として実践してみるとよいと思うが、以前、レインボーロードの石製モニュメント作成事業において、入札の結果、中国産の石材を使ったものが採択されるということがあった。今回の給食で漆器の食器を使うことに際しても、県内のものづくり産業の振興につながるような、有意義な方法を検討していただきたい。